

サバノオ	<i>Dichocarpum dicarpon</i> (Miq.) W.T.Wang et P.K.Hsiao	絶滅危惧 I 類
		キンポウゲ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(箕浦博之)
形態の特徴	茎の高さは10-20cmの多年草で、基部に根生葉がある。下部の茎葉は左右に少しずれてつき、上部の茎葉は対生する。花期は4-6月。花は緑白色で、全開せず、垂れ下がって咲く、径約8mm。果実は、2個の実が鱗の尾のように左右に開いてつく。	
生態的特徴	林中の日陰に生える。	
分布状況	九州の温帯に分布するとされていたが、岐阜県では県南の北部に生育することが確認された。	
減少要因	本種の分布域は県南の北部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅱ」平凡社(1982)	

文責: 佐藤和良